

婦負の野



〒930-0143
富山県富山市西金屋6682番地
社会福祉法人めひの野園
TEL.076-436-0270
発行責任者 中田 匡
(表題書)
高岡市中川上町3の31
(故)社浦 萩水先生

書道教室開設にあたり

昨年9月より、週1回めひの野園で書道の講師を担当しております。現在、富山市蜷川の知的障害者施設「あすなろ」の書道クラブの講師も務め、富山市内の公民館、一般家庭を訪問して書道の指導を行っています。

めひの野園で習字を始めるにあたり、書道希望者を募って頂いた所、思いのほかたくさんの方が希望されました。以前にも書道教室があったそうで、久しぶりの書道に興味を持って頂いたのだとうれしく思います。希望者が多かった為、希望者全員で毎回一度に行う事が困難で、グループ分けをしてのスタートとなりました。

毎回違うメンバーが集う書道の時間は、めひの野園での日帰り旅行の話や、家族で休日に遊びに行った話、自分の趣味の話も出て、和気あいあいとした雰囲気の中での練習です。手本の中から好きな字を自分で選んで書く人もいれば、手本なしで自分の好きな字を自由に書く人もいます。そんな中で先日、目を見張る様な作品に出会えました。それはまさにアートの作品で、「何と素晴らしい!」とハッとしました。私自身も学ぶものがありました。

今後も、その様な芸術的作品をたくさん見せて頂き、自身の勉強の場となる楽しみが一つ増えました。利用者さんそれぞれの個性を生かし、その独創性を引き出せるかが課題の一つです。

書道教室で利用者さんとふれあって、みなさんが人なつこく、素直で純粋な方ばかりで、めひの野園の書道の日が楽しみとなりました。書道を通じて利用者さん達との交流の場を与えて頂いた事に感謝致します。

(北陸書道院所属 金谷 小枝)



特集 新規事業

地域活動支援センター
「飛騨流葉牧場」

飛騨市から委託された「飛騨流葉牧場」。障害者雇用の場として、鶏舎（写真左側）での飛騨地鶏飼育の他、新しく建てられたプレハブハウス（写真右側）では、地元企業からの委託作業も行われています。

1月1日より、地域生活支援
事業として飛騨市より受託

めひの野園では昨年まで富山市内で8つの事業を展開していましたが、今年1月1日、岐阜県飛騨市から地域活動支援センター事業を受託し、9番目の新たな事業として「飛騨流葉牧場」がスタートすることになりました。

「飛騨流葉牧場」では、これまで行ってきた飛騨地鶏の飼育を始め、地元企業からの受注作業なども行い、飛騨市の新たな障害者雇用の場として期待されています。

今から遡ること6年、中田勉前理事長の、「めひの飛騨地鶏の仲間に入れてもらえよう」という突然の命でスタートした飛騨地鶏プロジェクト。その翌日には飛騨に向かい、飛騨地鶏の仲間入りを直訴しました。突然の依頼にも関わらず、飛騨市及び関係者の方々に快く迎え入れていただき、当法人の飛騨地鶏プロジェクトは始動しました。

早いもので、あれから6年が経過しました。当時2棟しかなかった鶏舎は、今では5棟になり、飛騨地鶏の年間生産数は一万羽を超えようとしています。



薪割り作業の様子。45cm幅に切られたナラ材を、薪機械でさらに割っていきます。

飛騨市の障害者雇用の場として、新たな受け皿に！

現在、「飛騨流葉牧場」では13名の方が、生き生きとやり甲斐を持って作業しています。当初、職員だけで行っていた地鶏の飼育作業は、今では彼らが主役です。今後さらに、地域の障がいのある方が、自分らしさを生かし、安心して働ける場になっていくことが「地域活動支援センター」としての役割だと考えています。

また、地鶏の飼育以外に、次のような委託作業にも取り組んでいます。

- ・ウエスの製造（ウエス：工業機械等に付着した油を拭き取る布）
- ・シーツ畳み
- ・地域の神社の清掃
- ・薪ストーブ用の薪の製造

薪の製造は、住宅メーカーからの委託で、現在需要が伸びている薪ストーブ用の薪を作る作業です。飛騨産のナラの木を、機械を使って、指定された大きさに割っていきます。

このように様々な委託作業を受け入れることが、地域との繋がりを密にし、障がいのある人の働く場として、新たな受け皿になっていくと考えています。

地域と連携し、求められる場へ。

今から30余年前、障害福祉関連の法整備が進んでおらず、適切な支援も確立されていない時代に、前理事長と園長は呉羽丘陵の梨畑を開墾し、1棟の小さなプレハブハウスで、行き場のなかった情緒障害児や自閉症者を受け入れ、当法人の歴史が始まりました。

その後、時代と共に変遷する障害福祉施策を先見し、様々なニーズに応えるべく幾多の事業所を開設し、現在に至っています。

地域の行き場のない障がい者の受け皿としてスタートした「飛騨流葉牧場」は、どことなく当法人の誕生期に似た環境のように感じています。この地で当法人ができること、求められていることをしっかりと考え、様々なニーズに応えることで、微力ながら地域貢献に繋がればと考えています。

最後になりますが、この6年間で多くの方々に出会い、本当にたくさん支えていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。飛騨市の障害福祉の発展に寄与するべく、今後もさらなる努力を続け邁進したいと思っています。

（飛騨流葉牧場主任 堀 宏）



多くの方で賑わった模擬店会場。地域の方と声を交わし、交流を深める場になりました。

2015年度 りんどう祭の 深いイイ話

深 めよう！地域交流

34回目を迎えた2015年度りんどう祭。今回も多くの皆様に来場していただき、大盛況となりました。

このりんどう祭は、単なるイベントではありません。そこに込められた想いには、実は深いものがあるのです。今回は、そんなりんどう祭にまつわる「深いイイ話」を紹介します！

りんどう祭の目的は、何と言っても地域の皆様との交流を深める事です。これまでいただいた多くの方からの支援や、協力への感謝の気持ちを、言葉だけではなく、音楽に乗せて伝えたいという思いから、今回のテーマは「ずっともつと一緒に！気持ちで奏でるハーモニー」としました。

体育館では、地域の保育所、中学校、高校の合唱や吹奏楽演奏といったステージ発表が行われ、観る人を楽しませてくれました。また、地元の商店からは、「ロツケ」や大福餅等、多くの販売がありました。

多くの方に足を運んでいただき、楽しんでいただくことで、地域の方々との交流を深めるよい機会になったのではないのでしょうか。



定番メニューのお好み焼き、焼きそばは、保護者の愛情が隠し味。

日々の活動の中で生産されている様々な商品を使ったメニューを味わっていただくことで、めひの野園の活動や、支援のあり方を知っていただく良い機会になっています。

すでに馴染みとなった飛騨地鶏の「串焼き」、「唐揚げ」、「飛騨地鶏カレー」は毎年大人気。また、作業センターふじなみの椎茸をたっぷり使った「ビーフシチュー」や「ホイール焼き」、春の苑2階の喫茶で販売された、やねのうえのガチョウの特製ケーキも、りんどう祭でしか味わうことができない一品です。

大根や白菜などの採れたての野菜に、椎茸や平飼いの鶏の卵、そして飛騨地鶏等々、りんどう祭ではめひの野園の特産品が勢揃いします。また、それぞれの事業所で工夫を重ねて生み出された、めひの野園ならではのメニューを味わうことができることも、りんどう祭の魅力です。

味わい
深い！
めひの特産品

意外に 深い！〇〇との関係

その年のりんどう祭を占うものの一つに「天気」があります。どんなに頑張っても準備を進めても、こればかりはどうにもならず、毎年、実行委員長の悩みの種になっています。ですが、心配ばかりしても仕方ありません。来場されるお客様のことを思い、テントの位置を工夫し、休憩スペースを屋内に設けるなど、毎年雨対策を講じています。

幸い、今年は好天に恵まれ、秋晴れの空の下で開催することが出来ました。今後、りんどう祭のようなイベントを続けていき、地域の方と共に歩み、地域の皆様に求められるようになるよう、一歩ずつ進んで行きたいと思えます。



体育館のアトラクション会場は、地元の中学校、高校の吹奏楽部による素敵な演奏に包まれました。

走り続けるやぶなみ

「手づくりのたくあん」のかが？

六次産業「生産から加工、販売まで」



自分たちで育て、収穫したたくさんの大根を
ハウスの中に並べ、天日干しにしています。



たくあん専用に生産された大根。
すくすくと育ちました。

今年度、ウォーム・ワークやぶなみでは新たな試みが始まっています。これまで製造していたたくあんを、「栽培部門」で大根を生産し、「食彩部門」で加工、「営業・販売課」で販売と、生産から加工、販売までの全てを自分たちの手でやってみようという、いわゆる六次産業に挑戦しているのです。

「たかがたくあん」と思うなかれ。昔ながらの製法にこだわった、ウォーム・ワークやぶなみ自信のたくあんが皆様の手に届くまでをレポートします！

まず向かったのは、収穫中の大根畑。今年度から「栽培部門」では、これまで行っていた大根の生産とは別に、「たくあん専用」の大根生産に取り組みました。その数なんと5千本。その中から、たくあん作りに向いている、なるべくまっすぐ伸びた大根を選別します。

続いて向かったのは、たくあんを漬け込む作業中の、ウォーム・ワークやぶなみ「食彩部門」。干した大根を、米ぬか、ザラメ、醤油、酢、唐辛子で一本ずつ丁寧に漬け込んでいきます。寺岡指導員は「昔ながらの作り方で、添加物などは一切使わず、どこか懐かしい、自然なおいしさに仕上がっています。」とのことでした。これは食べてみるのが楽しみです！

たくあんが漬けあがるのは、1月下旬ごろを予定しています。2月20日〜21日に婦中町のファボーレで開催されるハーティとやまでの販売や、当園の直営店「フレンドリーショップ希望」、「地場もん屋総本店」等で販売されます。手づくりのたくあんをぜひ一度ご賞味ください！

豆知識

六次産業とは…？

農業経済学者の今村奈良臣が提唱した造語で、農畜産物や水産物の生産（二次産業）だけでなく、食品加工（三次産業）、流通、販売（三次産業）にも総合的に関わることによって、農業を活性化させようというものです。

六次産業という名称は、各産業の単なる寄せ集めではなく、総合的結合を図る掛け算として、一次×二次×三次＝六次産業とされています。

群竹

muretake

めひの野園職員の
雑感コーナー



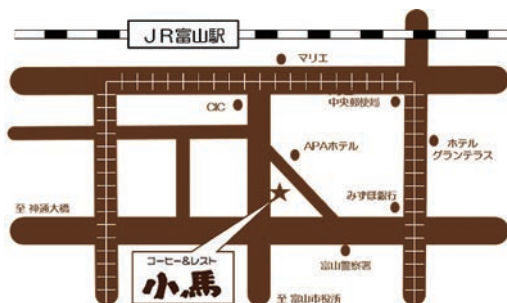
春の苑サービス管理責任者
中村 聡

秋が深まるにつれ、めひの野園周辺では多くのオオカマキリを目にします。この頃になると茂みから路面に出て来る個体が多くなります。この付近は職員らの車が往来するので、結果無残な残骸もあちこちに散乱します。あらら、と目を反らしつつも、ふと見ると、その亡骸の側にしばしばある生き物が無念そうに寄り添っていることがあります。

めひの野園に勤めて20年近くになりますが、子どもの頃に知っても実際に見ることのなかった珍しい生き物を、この丘陵で数々発見しました。コゲラ、フクロウ、モリアオガエル、ナナフシなど。そして、ある利用者さんが「ほらっ！」と見せてくれたカマキリ：の尻尾のように垂れ下がっている黒い紐様のモノ。もしや、これがハリガネムシ？

水中で卵から孵化した後にヤゴ等の水生昆虫に食された際に寄生し、食物連鎖の結果最終宿主のカマキリに行きつきます。ヤゴやトンボの体内ではほとんど大きくなりませんが、カマキリの体内で桁違いの成長を遂げます。その後、カマキリを体内からコントロールして水辺に誘導して入水させ、腹部を破って水中に帰っていくというエイリアン顔負けの生態を持つ生き物です。

細長い乾燥ヒジキのようなものがいくつも風に吹かれてカサカサと転がっていきます。どれも水辺に辿り着けずに干上がったハリガネムシです。人知れず路上の落ち葉と一緒に綺麗に片づけられると、やがてめひの野園にも寒い冬がやって来ます。利用者さんたちと一緒に呉羽丘陵を歩く日課の中で、まだわずかに木漏れ日が残るこの季節に私が見つけた小さな風物詩です。



コーヒー&レスト 小馬

〒930-0003 富山市桜町1-7平岡ビル 2F

「オムライス!」といえば…

老舗の喫茶店、富山駅前の「コーヒー&レスト小馬」です。

雨の日も風の日も、毎日届けていただいている「めひの野園さんの新鮮な卵たち」から作られるオムライス。お子様からお年寄りまでたくさんの方々に愛されている優しい味です。

昔から人気の「巻きオムライス」に加え、最近ではふわっふわ卵の「ふんわりオムライス」も好評です。

オムライスだけでなく、ドリアやパスタ、定食など美味しいメニューが揃っています。もちろん、喫茶店なので美味しい珈琲も!

ぜひ、めひの野園さんの新鮮な卵を使ったオムライスを食べに来てください。

スタッフ一同、笑顔でお待ちしております〜〜!(^^)!

今回、本誌を持参されたグループ全員、ふんわりオムライスを100円引きにてサービスさせていただきます!(平成28年3月末まで)



飛騨地鶏を使った一番の人気メニューは、「飛騨地鶏の朴葉味噌焼き」。
特製の赤味噌でじっくりと香ばしく焼き上げました。熱々のうちにお召し上がりください。

飛越食彩こし

〒930-0003 富山市桜町2-4-2 M E L ビル2F

新鮮な富山湾の幸と飛騨郷土料理が存分に味わえる「飛越食彩こし」。

めひの野園の流葉牧場で飼育している飛騨地鶏の鶏肉はもちろんのこと、卵やしいたけもお店の料理に使用しています。

素材の良さを生かした料理をぜひ味わってみてください。



めひの野園を応援していただいているお店を紹介します!

富山編



今年は申年!



かわいい三猿は小さなちゃんちゃんこがポイントです。(どちらも1つ1,000円(税込))

みしまの工房手芸班では毎年干支のマスコットを制作しており、今回は2種類用意しました。年末から新年にかけて「フレンドリーショップ希望」の店には干支の置物をお買い求めになるお客さんが多く、毎年楽しみにしているという声も聞かれます。今回のお猿さんも、お店に出す前から手芸班に訪れた職員や保護者の方が買っていく、店先に並ぶ頃には品薄状態となっていました。一つひとつ丁寧に手作りしたお猿さんは、今年一年たくさんのご家庭に福を招いてくれることと思います。

富山きときと空港

手で染めた糸を使って、自閉症の利用者が織りました。
woven by individuals with autism using hand-dyed yarn
自閉症人士手工编织的手染纱线
손으로 염색한 실을 사용하여 자폐증을 가진 분들이 만들었습니다.
手織りポーチ
hand-woven pouch
手工编织子包
손으로 짠 파우치

¥1,300

このように3か国語に訳されたPOPを作って展示しています。

先日みしまの工房の商品を販売している富山きときと空港から、「海外から富山に来るお客さんに向けた、商品紹介のPOPを作りましょう。」というお話があり、英語、中国語、韓国語の3か国語での翻訳が完成しました。空港の販売担当の方に聞いてみると、手織りの商品、着物地を使った「がま口」は、外国のお客さんにとっても人気があるとのこと、みしまの工房の商品から日本らしさを感じ取っていただいているようです。今回のPOPにより、自閉症の方が制作していることもお知らせでき、商品の更なる魅力を世界中の方知ってもらえることになりました。



富山きときと空港では、手織りポーチ類やがま口を販売しています。



とっておきのNEWS満載のコーナー

しいたけくん。

第39回 2016年「こんな初物はイヤだ」...!!の巻



(描・おかちん)

めひのスポーツ

全国初勝利！

めひの野球部

めひの野園野球部は、9月29日(火)～10月1日(木)に石川県金沢市で開催された第33回全国社会福祉軟式野球大会金沢大会に出場した。(4年ぶり7回目)1回戦は愛知ドリームスと対戦し、7対3で勝利し、全国大会初勝利を収めた。続く2回戦は兵庫アスレチックスと対戦し、0対7で敗れた。



次は全国制覇だ！

全国福祉軟式野球大会試合結果

1回戦 めひの野園 対 愛知ドリームス(愛知)

	1	2	3	4	5	6	7	計
めひの野園	3	0	1	0	1	2	0	7
愛知ドリームス	1	0	0	0	0	2	0	3

2回戦 めひの野園 対 兵庫アスレチックス(兵庫)

	1	2	3	4	5	計
めひの野園	0	0	0	0	0	0
アスレチックス	0	1	0	0	6	7

7対3。この結果に表れるほど簡単な勝利ではなかった。この一勝にたどり着くまでには長い道のりがあった。業務の合間を縫い、わずかな時間を使って積み重ねた練習、チームワーク、仲間の支え。様々な要素が重なり合ってようやく掴んだ勝利だった。しかし、ナインに喜びの表情はない。すぐに次の戦いが待っていたからだ。2回戦は、強豪「兵庫アスレチックス」を相手に、0対7で敗戦。悔しい思いがあるからこそ、また次の一歩を踏み出すことができる。

めひの野園野球部全国大会出場にあたり、多くの方々からご厚意を賜りました。ここに心から感謝の意を表します。



2連覇を果たしためひの野園野球部

めひの野園野球部 呉羽リーグ戦大会2連覇！

呉羽地区の野球愛好家が集い、9チームで争われた、第23回富山新聞社杯争奪呉羽野球リーグ戦大会において、めひの野園野球部は、8戦全勝で2年連続優勝を果たした。
また、個人賞として、中塩選手(作業センターふじなみ職員)が最優秀選手賞と最多勝利投手賞(5勝)、室澤尚史選手(作業センターふじなみ職員)が最多三塁打賞を受賞した。日々に新たに努力し、今年も共にがんばろう。

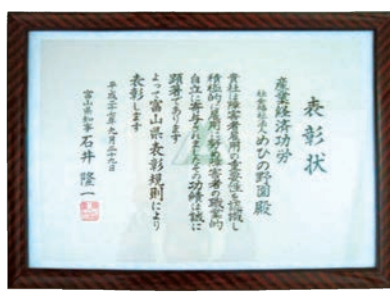
産業経済功労表彰

平成27年9月29日、富山県庁において、産業経済功労の表彰を富山県知事より受けました。めひの野園が、積極的に障がい者雇用に努め、障がい者の職業的自立に寄与した功績が認められたことによる荣誉です。

現在、当園では5名の障がい者の方を雇用しており、利用者の生活支援・職業支援に携わっております。



産業経済功労表彰で授与された表彰状と盾



ご寄付ありがとうございました。

(H27.9.7～H27.12.10) 敬称略

石橋孝史 富山市

佐藤理容院 富山市

金城大学 石川県白山市

片田弘 魚津市

西金屋自治会 富山市

花ノ木自治会 富山市

南俊正 富山市

(特非)愛和報恩会 富山市

松岡道子 富山市

花木チエ子 富山市

北川忠 富山市

池田勝哉 富山市

高見悦子 富山市

富山情報ビジネス専門学校 射水市

牧田修明 富山市

富山大学 富山市

富山県社会福祉協議会 富山市

寄付金振込口座番号 北陸銀行五福支店 店番号140

普通預金4041542 社会福祉法人 めひの野園

後援会名簿

(H27.7.29～H27.12.15) 敬称略

林龍史 富山市

高木由紀美 射水市

番定信弘 富山市

古石富美子 射水市

寺脇圭祐 中新川郡

中谷遼 富山市

藤井慶子 富山市

西井みのり 富山市

徳中友香 射水市

(有)クレハベイント 富山市

奥村健一 富山市

碓井典子 富山市

高嶋洋 富山市

高嶋栄子 富山市

古野清 富山市

末岡秀明 富山市

青山慶雄 富山市

後援会振込口座番号 北陸銀行五福支店 店番号140

普通預金4250590 めひの野園後援会

来訪者

(H27.8.26～H27.12.15) 敬称略

富山県商工労働部労働雇用課 蜜衛

日清医療食品(株)近畿支店 荒木美智子

北陸営業所 松永幸紀

KDDIまとめてオフィス関西(株)北陸支社 井貝晋

ソリューション富山支店 川渕浩史

日本海給食(株) 川渕浩史

(株)嬉泉 板橋区立赤塚福祉園 西川輝

(株)育桜福祉会 小向このはな園 鈴木謙之

(株)帝国データバンク 富山支店 松田力

日本テクノ(株) 金沢営業所 大越則雄

富山県私立中学高等学校協会 酒井治孝

(株)富山県精神保健福祉協会 川田有彦

ゆりの木の里 大牟田保養院 林祐樹

医療法人 信和会 林祐樹

(株)溪明会 花椿きらめき

障害者支援施設 中野周一

富山県火災共済協同組合 藤野こずえ

富山銀行 五福支店 片脇正樹

編集後記

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生れたか」と見当がつかぬ。」

一九〇五年に夏目漱石が発表した処女作、「吾輩は猫である」の有名な書き出しである。漱石はこの小説の中で、猫である「吾輩」の視点から、人間の生態を鋭く観察したり、人間の内心を読んだりしている。

実は、我が家にも十三歳になる雄猫が一匹、私たちと生活をともにしている。生活をともにしているといっても、家にいるのは寝ているか、食事をしていて時だけで、それ以外は、自由気ままに屋外を歩き回っている。全く愛想のない猫である。ただ、「吾輩」と違っていて「よしのぶ」という名前がある。彼が我が家に来たとき、当時高校生だった私の次女がつけた名前前で、昨年、読売ジャイアンツ第十八代監督に就任した「高橋由伸」のファンだったことから、拝借したものである。

「吾輩」は、二歳過ぎの頃、来客の飲み残しのビールを飲んで酩酊し、水がめの中に転落し、出られぬまま水死してしまいが、「よしのぶ」は本当の猫なのでその心配はない。ただ、屋外で過ごす時間が長いので、交通事故が心配で、私が毎日「よしのぶ。よしのぶ。」と言って屋内に呼び入れている。以前近所の方々に、息子を呼び寄せているのかと、勘違いされ、おもはゆかったことあったなあ――。

(匡記)